

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和4年度 【第3回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和5年2月10日（金）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 1階 研修室3
出席者	小谷 博子部会長 佐藤 奈緒委員 高橋 和子委員 相澤 まり子委員 川松 佳諸里委員 松崎 敬委員 梶原 里美委員 高橋 俊哉委員 門藤 敦良オブザーバー 佃 美幸オブザーバー
欠席者	小長井 亜希子委員 酒井 康年委員 寺山 早苗委員 辰田 雄一委員 古里 宏子委員 設楽 寧子委員 橋本 太郎委員
会議次第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 経過報告 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 講演会『支援管理課の事業について～学齢期の支援を中心に』 講師 こども支援センターげんき支援管理課 門藤課長 (3) 協議 (4) 事務連絡 3 閉会
資料	1 こども部会次第 2 支援管理課事業内容（講演会レジュメ） 3 東京都障害者差別解消シンポジウム案内チラシ
その他	公開状況：公開 傍聴：0人

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会】

みなさま、こんにちは。定刻より少し早めですが、みなさまお集まりいただきましたので、始めさせていただきますと思います。

本日はご多用のところ、また天候の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。私は司会を務めます障がい福祉センター幼児療育支援担当係長の浅輪でございます。よろしくお願いいたします。

こども部会は、今日で3回目ということになりました。今年度まとめの回ということになりますので、みなさま活発なご意見をお出しいただければと思います。

—資料確認—

まずはじめに、資料の確認をさせていただきます。

- (1) 第3回こども部会次第
- (2) 支援管理課事業内容
- (3) 東京都障害者差別解消シンポジウム

となっています。資料の不足等ございませんでしょうか。

この度は新型コロナウイルス感染症の拡大が気になるころではございますが、感染症への対策を十分に行いながら、開催をさせていただくこととなりました。またあしすと全館のエアコンの不調のため、寒さ対策等ご不便をおかけいたしております。大変恐縮でございますが、ご了承いただければと思います。

なお、この自立支援協議会は発言等会議内容及び発言者名などを後日議事録として公開いたします。また議事録作成のため、録音をさせていただいております。ご了承願

います。

では、障がい福祉センター所長高橋よりご挨拶をさせていただきます。

【高橋委員（障がい福祉センター所長）】

みなさん、こんにちは。障がい福祉センター高橋でございます。

今日は本当に寒く、今シーズン初雪というわけではないと思いますが、ここまでしっかり降ったのは初めてということで、非常に寒さも厳しい中、ありがとうございます。

令和4年度足立区地域自立支援協議会こども部会第3回目ということで、今年度最後になります。今月21日には本会議も控えておりますので、今日はまとめとさせていただきます。また、今日はこども支援センターげんき支援管理課の門藤課長にお越しいただいて、おもに学齢期の支援を中心にされている支援管理課の事業内容についてご説明いただく予定です。

寒いので、上着等お召しいただき、今日も活発な意見交換をお願いいたします。

【司会】

引き続きまして今年度のこども部会のこれまでの経過につきまして、事務局の藤ノ木より説明させていただきます。

【藤ノ木（障がい福祉センター）】

幼児療育担当の藤ノ木から説明させていただきます。

第1回は、書面開催で7月におこなわれました。書面開催で共有した事項というのは、委員と所属の紹介、家庭・保護者への支援の課題、人材確保・人材育成、新型コロナウイルス感染症の影響について部会で検討したいこと、などについてアンケート形式

で確認いたしました。また、コロナ禍での各機関の現状、各機関の情報発信と支援や相談連携などのつながりについて課題を出していただきました。

これを踏まえてこども部会で検討したいこととして、発達障がい等で不登校や引きこもりの状況の児、なりつつある児の支援や教育・医療・福祉などとの連携、情報共有の方法、それから足立区の小学校・保育園等で医療的ケア児への対応が始まって今後さらにいろいろな機関にも広がっていくことが考えられる現状や今後に向けた情報共有をしたいということをまとめました。

第2回はこの第1回の書面開催の内容について振り返り、またプラスして重層的支援体制の整備事業と足立区地域福祉計画に関連してアドボケーターの取り組みや、こどもの権利擁護等の情報共有をおこなったうえで、協議がおこなわれました。その中で、例えば小学校1年生から放課後等デイサービスを利用したいといっても空きがないので探しているといった地域の社会資源の現状や、保護者に発達課題や療育の必要性をどう伝えるかが課題であるなどの早期療育の家族への伝え方、インクルーシブ保育の現状、教育の現状、地域アドボケーターに関する協議などがなされました。

学齢関係の委員の出席が少なかったために第2回でできなかった、学校やこども支援センターげんき等学齢期の支援、学校の相談対応、相談内容、相談の現状などについて、またさらには医療的ケア児の対応について、今回オブザーバの方も呼び出してより活発な協議ができればと考えています。そして本日第3回開催となりました。以上です。

2 議事

【司会】

以上が前回までのこども部会の経過報告となります。続きまして、議事にうつらせていただきます。

はじめに、こども部会の部会長である東京未来大学の小谷先生からご挨拶をお願いします。

(1) 部会長挨拶

【小谷部会長（東京未来大学）】

みなさん、こんにちは。東京未来大学こども心理学部で准教授をしております、小谷と申します。この度は雪の中、ありがとうございます。私も、ちょうど昨日大学の授業が終わり、採点をしている状況ですが、学生たちが2月頃から実習等でお世話になったことと思います。ありがとうございます。

東京未来大学は保育士と小学校の教員の養成をしています、各小学校にボランティアで入らせていただいていたいへんお世話になっていると聞いております。この取り組みができるのは、足立区と大学の連携が緊密ということで、なかなかほかの市町村ではできないことだと聞いていて、それが足立区の特色であり、うちの大学にとっても特色になっています。そして1年間ずっとボランティアで毎週毎週学生たちが通って、授業に入らせていただいているという現状があるのですが、その現状の中で保育園等がたいへんな状態ということを学生から聞きます。大学の教員はそれぞれ障がいについて教えていたり、保育や教育のことを教えているのですが、やはりさまざまな子どもたちが一緒になったときにどういうことが起こるかというのは現場に出てみないとわからなくて、逆に学生から話を聞く

たびに、これは教員のほうが知らなかったということが多くて、それだけ現場の先生方がたいへんご苦労されているのではと思います。教員として、保育の現状と言いますか、入学をめざしている学生も徐々に減ってきている状態で、教育に希望を見出すのが結構難しい社会になっているのかなというところが大学の現場としては感じています。これはうちの大学だけではなくて全体に教員を希望する学生が減っているということなんですけれども。逆に心理はわりと人気がある分野になってきていて、障がいの分野に興味を持つ学生が増えていくのではないかなと思っています。だからこそ、この分野の未来があるのかなと思っています。今期の1年目である今年はコロナのこともあり、あまり活動できませんでしたが、2年目に向けて今日は話し合っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【司会】

小谷部会長ありがとうございました。

本日の進め方ですが、通常ですとここから協議に入るところですが、先ほどの報告にもございましたように前回の部会の中で特に学齢期の支援について実際どうなっているのかということを詳しくお聞きしたいというご要望をたくさんいただいたので、それを受けまして今回の前半は講演会ということで、足立区における学齢期の支援を中心に支援管理課の事業全般について、子ども家庭部こども支援センターげんき支援管理課の門藤課長よりお話をいただきます。それを受けて、みなさまからご質問を出していただいての質疑ということで、前半は1時間程度を予定しております。

そのあと休憩をはさみまして、いつもの

ような協議の形に机を直させていただき、講演を受けてのご感想あるいは今、小谷部会長からもありましたように次年度に向けての協議のテーマなどみなさまからご意見をいただいて進めてまいりたいと思います。では早速ですが、こども支援センターげんきの門藤課長、よろしくお願いいたします。みなさまもご存じかと思いますが、門藤課長は、長く足立区内の中学校に教員としてご勤務され、中学校の校長も歴任されています。そのあと、現職こども支援センターげんきの支援管理課長ということで、特に中学校における特別支援教育の推進や同じ課で就学相談もご担当されていて足立区の教育についてはたいへんお詳しい方です。ご質問のある方は、のちほどお出しいただきたいと思います。

それでは門藤課長、よろしくお願いいたします。

(2) 講演会

『支援管理課の事業について～学齢期の支援を中心に』

講師 こども支援センターげんき
支援管理課 門藤 敦良課長

【司会】

ありがとうございました。

それではここからは質疑応答ということで、みなさまからのご質問を受けていきたいと思います。

ご質問の際には、お名前を言っていただけたらと思います。どなたからでもどうぞ。

【小谷部会長（東京未来大学）】

貴重なお話ありがとうございました。足立区の特徴がよく表れていて、すごいなと思ひながら拝聴させていただきました。WHOがインクルーシブ教育を日本はやっていない

いということでニュースで話題になったところで、それがすでにやられているのかなと私は思ったんですが、実際にそれをするためには教員の配置の数など、人手がいると思います。足立区独自で加配をしているのでしょうか。

もう一点が、医療的ケア児の喀痰吸引を3号研修修了者が実施しているとのことでしたが今のところ問題というか、保護者が横にいるのかどうか。

特別支援学校と特別支援学級、通常学級の境のところで、就学相談でどのようなところに気をつけていられるのか、今保護者が希望を出すことができますが、そこには限界があると思うのでそのあたりを詳しく教えていただければと思います。

【講師】

教員の配置については、基本的には東京都が人事権を持っていますので、こどもの人数によって教員の人数が決まります。そうなったときに、特別支援教室はどうしても人手が必要だということで、足立区は独自の区費、区で雇った教員を今配置しています。小・中学校合わせて30名程度の区費の教員を配置しています。

医療的ケア児についてですが、第3号の研修修了者がついたとき、もちろん保護者は不安です。最低でも1ヵ月間は一緒にケアをしていきます。保護者が安心した段階で、初めて保護者の付き添いなしでやっています。だいたい保育園でケアを行っていた方がそのまま支援に行くので、比較的違和感なく今のところはっています。ただし、今後人数が増えたらどうかという課題は残ると思います。

特別支援学校と特別支援学級の違いはな

んですかといいますと、基本の考え方は「学校」はまだ自立が十分にできていない、まずは自立を先にやろうというのが特別支援学校で、「学級」については、いろいろなハンデがある、それを克服するために学習を通して育っていく、そこが大きな違いなんです。では「この子は学校です」、「この子は学級です」とはっきり線を引くことはできません。われわれがアドバイスするのは、学習面でどのくらい今、困難さを持っているかということと学校生活を送るうえでどの程度自立しているかということについて情報をいただいて、その上で判断させていただいています。最終判断は、保護者に「こういう状況です。ですから支援管理課としては学校が適切だと思います」というアドバイスをしています。それでも学級に行かれる方、通常学級に行かれる方もいます。そのケースの時に、本当に「お客さん」になってしまう、朝から6時間、まったくわからないような授業を6時間聞いて、それが5日間続きます。その子がその中で何か自分がわかるようなことが見えてくれば大丈夫ですが、それがないと本当につらい一週間というケースも実はあるので、その際は途中で心理士等を学校に派遣して、そこでもう一度保護者と相談させてもらいながら、次のステップはこういうものがいいだろうというアドバイスはさせてもらっています。結論としては、線は引けないです。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

実は、質問というより今まさにお答えいただいたところですが、うちは都立花畑学園の肢体不自由教育部門のお子さんがほとんどなんです。就学前に支援学級に行くのか支援学校に行くのか、また知的のほうで

行けるのか肢体不自由なのかと迷われる方がとても多く、特にご利用のお子さんと支援学級に行って支援学校に転学したとか、その逆のパターンもあってそのあたりのアドバイスはどうかさっているのかなということが聞きたかったのですが、今しっかりお答えいただいたので、そこが質問したかったところでした。ありがとうございました。

【松崎委員（北療育医療センター城北分園）】

コミュニケーション教室については、基本的には通級と言うことで、学校でやることはやると思うんですが、医療的に何か必要じゃないかというお子さんが出てくると思うのですが、服薬が必要と言う場合などその導入はどのようなかたちで学校から保護者に働きかけているのでしょうか。

医療が必要かなと学校で思われた場合に、保護者にどんなかたちで医療機関をすすめているのでしょうか。

【講師】

教員の立場で言わせていただくと、非常に難しいです。教員は医師ではないので、あなたはこういうところに行ったほうがいいですよと言うこと自体がおかしい、となりますので、その場合は支援管理課が間に入って、学校からも保護者からも話を聞いて、今の困り感がこうだったら、もし不安だったらこういうところもありますよと言うアドバイスはしていますが、薬を飲ませないでだめだよということは、学校は絶対やってはいけないし、われわれもそこは言うべきことではないと思っています。

【松崎委員（北療育医療センター城北分園）】

ありがとうございます。私どもは肢体不自由のお子さん対象なので、発達障がい

お子さんをみることはないのですが、ごくまれにご相談が来ます。学校から言われたというような言い方をされているので、保護者もちゃんと理解して相談に来ているわけではないようなので答えようがなく、どんな形でおすすめているのかをお聞きしたいと思って質問しました。

あと、発達支援事業の令和4年度試行実施で、看護師の医療支援とあります。東京都医療的ケア児コーディネーターとは、どういう意味でしょうか。

【小谷部会長（東京未来大学）】

かわってお答えします。2021年に医療的ケア児支援法が施行され、今、各市町村に医療的ケア児支援センターが設置されたり、コーディネーターの養成が始まっています。東京都も養成を始めていて、看護師が研修を受けることでコーディネーターになれるということです。東京都立小児総合医療センターが東京都の相談支援の拠点になるということで都が動いています。足立区は2名コーディネーターということで、看護師が研修を受けて認められていることでよろしいでしょうか。

【講師】

その通りです。今、足立区ではさらにもう一つ拡大していこうというのは、保育園に十数名看護師がいるので、最終的には全員にコーディネーターの研修を受けさせて、構想は足立区を5つのブロックに分けて、その拠点にいるコーディネーターがその地域に必要な場合はコーディネートするところまで拡大したいと思っています。区立の保育園はつくりましたが、私立や地域で困っている方たちはなかなかうまくつながらない。それを将来的には、看護師たちがコ

ーディネーターとして中心となって、一つのブロックで医療的ケア児のお子さんをカバーしていければという構想があります。

今6名くらいがコーディネーターになっていますので、これからどんどん増やして拡大できればというふうな構想で考えています。

【和田（障がい福祉センター）】

これまでのこども部会の議論の中からお聞きしたいことが二点あります。一つは学齢期の連携機関がよくわからないというご質問が多くて、先ほどのコミュニケーションの教室のレベル2の方について、たとえば「保育所等訪問支援」ですとか、いろいろどういった外部機関との連携が学校の現場でおこなわれているのかというのをお聞きしたいのが一点目です。

二点目は、保護者がいわゆる「気になる子」と言われるお子さんのことで学校の先生に相談しても、あまり伝わっている感じがしなく、うまくやりとりができないという場合にどのような対応が考えられるのかということが議論になりましたので、そのあたりを教えていただければと思います。

【講師】

最初の質問について、実は人材がまだまだ育っていないんです。これからだと思っています。地域の方々に、退職なさった方やいろいろなタイプの方がいろいろな才能を持っていられちゃう、そういう方々をうまく活用しながらというのが一つあると思います。今現在できているのは、集団で「命の大切さ」について、近隣の病院の方に来ていただいて「命はこう、赤ちゃんはこう」とどんなことが必要かなどを講演していただいたり、近くに消防署がある場合は、いろいろ

な対応の仕方を直接習うなど、そういう外部の力をお借りするところまではできています。次のステップとして発達系のお子さんたちが困り感を感じているときに何らかの支援ができないかと考えているのですが、レベル2までどうしてもうまくいかないなと思っています。これから地域のみなさまのお知恵をお借りして、こういうことだったらできるよというのがあったら、または保護者の会、父母の会や親の会というところとうまく連携してというのが考えられるかなと思っています。これからの課題ですので、今は1番と3番と思ってください。

それから、保護者と担任との関係についてですが、これから変わってくれると思っています。これからというのは、今まではなかなか発達に課題のあるお子さんに対して理解が十分にできていない、結局指導は別の学校でやっていて、そこで途切れていたんです。でも今は自分の学校に先生がいて指導している、それを共有する、そうすると今度は担任がそのことを理解して自分の教室の中でするようになる、そこまでは今できています。次のステップが、保護者の困り感をどううまく担任等がしっかりと受けとめていくかということなのですが、これは時間がかかります。教師は、やはりこどもを教える仕事だと思いますので、こどもを教えることはうまいんです。本当にそういうケースの時にたとえば、今ペアレントメンターの方に電話でもいろいろな形で相談を行っていただいています。本当に聞き上手な方たちです。一つはそこをつないでいただいて、ちょっと相談してみて、電話で相談してもうちちょっと聞きたいなと思ったら対面で聞いてもらうというのが、もう7年く

らい続けていただいているところです。そこをもう少し広げると、保護者も気持ちが落ち着くかなと思っています。これもこれから先の課題だと思います。

【司会】

ありがとうございます。今ちょうどメンターの話が出ましたが、川松委員いかがですか。

【川松委員（ねっとワーキング）】

私たちねっとワーキングは、ペアレントメンター事業を区の委託事業としてやっています。2月12日で丸7年になります。メンターも昨秋38名まで増えまして、電話ですとかオンラインでも対応しながら相談にのっています。ぜひご活用いただければと思います。

最近不登校のお悩みですとか、発達が絡んだかたちでなのですが、学校とのことでの悩みが増えているのではないかと肌感覚ですがあります。私たちも同じ親として思いが共通する部分もあるのですが、今日お話を聞いて、担任の先生もいい・悪いではなくて、個人個人の理解のしやすさがあるのかと思っていて、少しこじれたケースでお話をいただくこともあって、そういった時に、さっきのレベル2にあるように少し調整役として入っていただくのは「げんき」ということでいいでしょうか。

【講師】

最初に担任とトラブルになったというときは、教育相談課のSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）が間に入ってということはやっています。

（中略）

広く区民の方に、気楽に連絡してもらえ

て相談の窓口が見つけられるようにということは、課題として考えていきたいと思っています。

【佐藤委員（足立区手をつなぐ親の会）】

先ほど、親の会などとも連携をとりたいというお話があったので、何か具体的にできることがあるのであれば教えていただきたい。特別支援教室は、知的障がいのない発達障がいの方対象となっていますので、知的障がいのお子さんは特別支援学級に進学を考えるとと思いますが、自治体によっては地域に一人でも必要なお子さんがいればその学校に特別支援学級を設置するところもあります。足立区は設置校が限られているので、家から遠いとか、結局特別支援学級に毎日送迎して通うよりは、花畑学園など特別支援学校にスクールバスで行ったほうが楽だという方もいらっしゃると思います。花畑学園もどんどん新生が増えているのではないかと思います。足立区の方針のことなので、お答えいただけるかわかりませんが、お考えがあればお願いします。

【講師】

二つ目のほうは、自治体によってはそれぞれの学校が独自に設置していると、それは素晴らしいなど、裏を返せば失礼な言い方になったら申し訳ないが、地方はそれぞれの学校が離れているじゃないですか、だからどこかに一つというのでは無理だから、対象のお子さんがいたらそこでがんばって育てようという考えだと思います。東京の場合は、足立区のこの狭いところに小学校では20校に設置しています。それでやっているとというのは、逆に言うと東京のよさだと思います。一人について一学級作ると、響きはいいですが、毎日一対一なんで

す。ある程度人数がいないと、人間関係の確立が難しいと思うんです。だから、保護者の方にたいへんご負担をおかけしてしまうことは重々わかるが、ある程度的人数の中で育っていくというのが一番いいかと思っています。ただそれが正しいかどうかは別としてですが。それが私の考えです。

それから保護者の会、最近よく言われるのが自分はこういうことで困り感を持っている、そういう仲間の人たちと情報を共有したいといったお話をよく聞くのですが、残念なことに支援管理課が「じゃあみなさん集まって、こういうグループを作りますよ。やってみましょう。」というのが個人情報などいろいろなことが絡んでいて非常に難しいです。特に医療的ケア児は、それぞれのご家庭によって状況が違うので個人情報になってしまいます。区が率先して何かをするというのが非常に難しい。そのときに、「こういう会がありますよ」とご紹介して、そこに相談に行くという、そういうお力を借りたいというのは思っています。それができるのかどうかはわからないが、ある団体は「いつでもいらっしゃい。連絡してくれば何とかするから。」という団体もあって、リストを作って足立区にはこういう親の会がありますとご紹介して、あとはその方が選択していけるというシステムができるといいのかな、と親の会の方々にやっていただけるかどうか、それを少しずつ相談させてもらえれば嬉しいです。

【司会】

ありがとうございます。今後の連携というところも視野に入ってきたかなと思います。まだご質問もあるかと思いますが、後半の協議のお時間も取らせていただきたいと思います。

思います。また部会の検討の中で疑問等がありましたら、事務局から確認させていただきたいと思います。

ありがとうございます。それでは、講演及び質疑応答を終わらせていただきます。

お忙しい中、資料作り及びご足労いただいた門藤課長にもう一度拍手をお願いいたします。

それではありがとうございました。

(休憩)

～座席変更～

(3) 協議

【小谷部会長（東京未来大学）】

お忙しい中、ありがとうございました。私、日本生体医工学会というのに入っていて、医療機器の専門をしているので、先ほどのところで、これから足立区の医療的ケア児がどうなっていくのかと、とても勉強になりました。みなさんもうかがったでしょうか。ご感想等も含めてお願いいたします。

【梶原委員（足立区立本木保育園）】

今まさに就学を目の前にしている年長児がいます。コミュニケーションの教室でフォローするというかたちになっているんですけども、どのようなことがおこなわれているのかなと思っていてご質問したかったのですが、送り出す側としては学校に行ってからどんなふうな、こどもたちのいいところを伸ばしてもらえるのかな、どうなのかなと気になりながらお話を聞かせていただきました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

私は、小さいお子さんの保護者の方の支援をしてきたので、地域の保護者の方とお話する機会があって、通常学級に入ってい

るお子さんの保護者から相談を受けたり、
いろいろなお話を聞いたこともあります。

一方では学生から、「現場は大変です」と
というような話も聞いていて、送り出す側
のご苦労と、社会全体で受け止めなければな
らないという過渡期なのかなと思いました。
保護者の立場からというお話を先ほどして
いただいて、地域のコーディネーター役と
して求められているのかなと思って聞かせ
ていただきました。

【佃オブザーバー(千住保健センター)】

今回初めて出席しました。保健センタ
ーなので、資料の2枚目の就学前期からず
っとなっているところの一番最初のところ
で、早いお子さんですと1歳6ヵ月健診か
らで、その時点では保護者が不安に思うこ
とが多いですけど、3歳児健診のころには、
ちょっと気になるかなというお子さんが
いて、げんきやあしすと一緒に支援してい
ます。そのあとチューリップシートなど
も連絡いただいたりしているんですけど、
なかなか私たちのほうが力量不足でお役
に立てていないかなと思うんです。残念な
がら中学のあとくらいに、適応できない
かなというお子さんや引きこもっていて
どうしようという保護者からのご相談を
受けるのが保健センターということにな
るかと思います。年齢を区切っているわ
けではないですし、どちらかというと保
護者がとても悩んで、メンタルを病んで
保健センターの担当保健師とつながると
いうこともあります。そういう役割かな
と思います。よろしくお願いします。

【小谷部会長(東京未来大学)】

ありがとうございます。ご質問させて
いただきたいの、東京女子医大が移転して

きて、発達に課題のあるお子さんが今後
足立区で増えてくる可能性があると思うん
ですが、切れ目のない支援ということでど
うにされているのかお聞きしたいです。

【佃オブザーバー(千住保健センター)】

5ヵ所の保健センターがあって、若干バ
ラつきはありますけれど、小さく生まれ
たお子さんのグループだったり、多胎児は
多少リスクがありますので、発達が心配な
お子さんの中にはいらっしゃるの、「ふたご
の会」というところからつながりを作る
ようにしています。ただ、この3年コロナ
感染者の波が上がってくれば保健師はコ
ロナの対応にあたるので、ケース対応が
十分できずもう一度仕切り直して私たち
も学ばなければいけないと感じています。
グループもそういうわけでほとんど実施
できずに来ましたが、今年は感染状況を見
ながら実施しています。なぜかわからない
のですが、喉頭軟化症のお子さんが、ち
よっと多いと感じています。

【小谷部会長(東京未来大学)】

東京女子医大の教授がその専門医な
ので、それで小さく生まれてたいへん
なお子さんはみんなこちらに来ている
ようですね。足立区に引っ越してくる
方もいると思います。

【佃オブザーバー(千住保健センター)】

実は、千住管内は一番人口が少ない
のですが「そのようなお子さんが多い
ね」ということで、病名がついたお
子さんを5組くらい集めて今年グル
ープを、コロナの動向を見ながら「
今ならやれるか」という感じで実
施しました。

まだ今感染がおさまっていません
が、来年度は通常業務をしっかり
できるかなというところ
です。今日は貴重な情報をありが

とうございました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

今日いろいろ先生の講義で、あらためて足立区の取り組みを知りまして、すごいと思いました。また、保護者の方からのいろいろなご意見を聞いて、うちは放課後等デイサービスで、お子さんの自立支援の日々の活動がとても大事なんですが、メンターさんのような保護者に寄り添うというところもとても重要な部分を占めていまして、コロナになる前に勉強会をしようという計画を立てていたんです。それはスタッフの意識の持ち方を変えていこうということと、学校の先生のかかわりとはまたちょっとちがったかかわりをデイのほうでは、ご家族に寄り添うかたちでやっていきたい部分で、ご意見とかスタッフで勉強会をしたいので、近々ぜひお願いしたいです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

放課後等デイサービスには、うちの学生もかなり就職とかアルバイトもいっぱいいろいろなところでさせていただいて、会社や社会福祉法人などいろいろなところがあり、学生たちの意見交換を聞いているだけでも「え、そんなにちがうの？」というくらいに全く違うようです。ある放課後等デイサービスのお手伝いを地域の交流ということで学生たちと一緒にやっているのですが、本当にいろいろなお子さんたちが放課後等デイサービスに通っているという感じも見受けられます。放課後等デイサービスとは何なんだろう、送迎付きの習い事なのかなと思える面もあるし、本当にいいところに、このレベルの障がいの子がここ

にいったらいいのというマッチングがなく、保護者が情報を集めているいろいろ動いてそれで定員がいっぱいになってしまっているのではないかなと、学生の話を知っている中で思うことです。

放課後等デイサービスにがんばってほしい、いい会社、いい団体があるのは学生の話を知っていると感じているので、がんばってほしいなという思いがあります。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

今もう、保護者も就学前に夏あたりから「デイ活」というのが、デイを探すのに必死なんです。うちは、本当は区切ってはいけないのですが、肢体不自由のお子さん花畑学園のお子さんということにさせてもらっているんで、100%肢体不自由児というのは今のところうちだけです。うちも増やしたいけれどなかなかできないというところで、今は、ほとんどお断りして、キャンセル待ちの状況です。それだけ肢体不自由のお子さんの行き場がないということです。お話のように各事業所がいろいろな特色をもってやられています。うちは入れないまでも、見学という形で、いつでもうちのデイはこういうところなんですということで、見学を受け入れて、情報を開示しています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

本当に頑張ってくださいと思います。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

がんばります。

【高橋委員（障がい福祉センター所長）】

本当に今日はみなさんありがとうございます。こども部会とある意味切っても切れない関係のこども支援センターということで、今日は門藤課長にお願いをして、お話していただきました。今までも特にうちの

幼児の通所部門と外来部門は連携はして当然進めていくわけですがけれども、まだまだげんきとも、もっともっと連携が必要だなと思う場面は多々ありますので今後もげんきとは緊密に連携してやっていきたいと思います。また、こういう場でもお呼びしていろいろなお話を聞かせていただこうと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【川松委員（ねっとワーキング）】

今日はいろいろありがとうございます。今、ハートぽっぽの相澤さんからもお話がありましたように、もともとつながっていた保護者がいた関係で、今度新年度にでも勉強会をさせていただこうと思っています。また、親の会の佐藤会長にも、この秋めでたくメンターになっていただいて、これからどんどんそういった連携も大切になってくると思います。電話相談も、ちょっと重い肢体不自由系の方ではないかなという方が、一時期頻繁にお電話があったんですが、いろいろなお話のなかで自然な形で、肢体不自由のほうの父母の会をご紹介したあと、電話がなくなったので、そういったことでつなぐということが大事かなと、先ほどの保健センターのお話でも「切れ目のない支援」という言葉がありましたが、ペアレントメンターの事業は年齢に関係なくご利用いただけるものなので、中には保護者自身が発達障がいをお持ちで、「家計簿のつけ方がわからない」というようなお悩みで来ることもありますので、ぜひ区の大切な相談資源として使っていただければと思います。

今日のお話に絡めて、私の感想なんですが、一つは数は少ないんですが、すごく先生との関係がこじれて、その相談の電話がか

かってくることがたまにありまして、それが門藤課長のお話を聞いて、担任の先生がお子さんを見るようになったということなので、特別支援教室の先生との連携も必要なんですけれど、担任の先生のかかわりが多くなってくるので、レアケースでうまくいかなかったときに問題がそこから離れられないので、すごく保護者のほうでもプレッシャーを感じたり、ストレスを感じるのかなと思いました。

私たちは年に一度、所管課が「げんき」なので、特別支援教室の先生に対して、コメンテーターとしてメンターが保護者の気持ちを語る機会を作ってもらっているんですけど、その時にすごく障がい受容のことを聞かれます。質問を受けていると、私の個人的な感想だと思っていただいていいんですけど、障がい受容さえすれば医療にもつながり学校生活がスムーズになる、というような期待が少し透けて見えるときがあって、それだけやっぱり現場はすごく大変なんだろうなと思います。みんなにとってより良い形になるといいなと思います。

先ほど佐藤委員がおっしゃったように、今、特別支援学校の生徒数がものすごく増えているのにびっくりしてしまって、足立区の学校ではないんですけど、小3のメンターさんにお話を聞いたときに、一学年の人数を聞いて40人とか言っていて、それじゃあすごく大変なんじゃないかと思いましたし、放課後等デイサービスに関しては、就学の2年ぐらい前からどうやったらいい放課後等デイサービスがみつけれられるかという相談もきます。いろいろ今過渡期というか、すごく問題がいっぱいあって、つながる話がいっぱいあるなと感じました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

それこそ医療的ケア児の保護者の方は、放課後等デイサービスがそのあとの生活介護事業までやっているところを見据えて発達支援の段階から入れておかなきゃいけない、放課後等デイサービスのときに入れているけれど、もうその時に友達がライバルということ、仲良くやっているけれど、ライバルと言っていました。

【高橋委員（民生・児童委員）】

関係機関ということで、民生委員の障がい福祉部を担当した関係で出席させていただいております。

みなさまとちがって、意見とか情報としてお伝えできることが何もなく、ただ自分で情報を集めて知るという感じでございました。私の場合、みなさんは任期が2年だと思いますが、民生委員は改選の時期になりますので、今回で終わりになりますが、大変いい勉強になりました。ありがとうございました。今日の講演もいろいろな情報を勉強できました。3年に渡りましたが、有意義な時間を過ごさせていただきました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

足立区は地域の方がすごく声をかけてくださるので、子育てしやすいのではないかと思います。高齢者の方が結構立って声をかけてくださっています。

【高橋委員（民生・児童委員）】

おせっかいと言われてしまうかもしれませんが、そういう方多いです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

すごくいいなと思います。どうされているかなと思ったら、毎朝家の前に立たれて「いってらっしゃい」と言ってくくださる方が家の近くにいらっしゃいます。

【佐藤委員（足立区手をつなぐ親の会）】

うちの親の会は、支援級の人、区立の小中学校に通っているという会員は数人しかいないので、実際のところ支援級の方がどう過ごしているかというのはあまりわかりません。

【小谷部会長（東京未来大学）】

地域の学校に行かなかったことで、デメリットとか、どうですか。特別支援学校に行ったことによって地域に友達ができなくなるということで、地域の学校にいたいという声がたくさん多いのですが、それは感じられますか。

【佐藤委員（足立区手をつなぐ親の会）】

今、インクルーシブ教育をと上のほうから言われて、どう動くのかなと思っているのですが、花畑学園はとても居心地がよさそうだなと思いますね。放課後等デイサービスもでき始めて10年くらい、増え始めて10年くらいなので、20代後半、30以上のお子さんの保護者からすると、保護者が働くためにお子さん預けるなんてとんでもないという感覚の方がまだまだ多いので。小さいお子さんをお持ちの方から相談を受けたとしても、共感をもって答えられる世代があまり親の会にはいないなと思って。先日ペアレントメンターの研修を受けさせてもらって、すごいしっかりやっているなと。

【小谷部会長（東京未来大学）】

どうですか、支援されている立場として、昔はなくて今やられていて、保護者の要望がどんどん高くなってきて、たとえば放課後等デイサービスも土日に預かってくれるところがいいとか、こどもの育ちのためなのかなと思う。障がいのある子にとってス

トレスになるんじゃないかと思うのですが、そのあたりはどうですか。預かる立場としてのご意見とか。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

うちも新年度からは一日しか入れないという状況なんですね、新しい子は。高校3年生までいるので、抜けないと新しい子は入れない。保護者はいろいろな事業所に、4件、5件、10件と電話して聞いて見学に行くとやっているのですが、なかなか入れない状況です。

私と学校の先生と共有しているのは、共通意識の中で預ける状況というのがいろいろあって、そこは受け入れる時に考慮します。

【小谷部会長（東京未来大学）】

私は子どもを0歳から入園させたので、偉そうなことは言えないんですけど、もうちょっと小さいときは保護者とゆっくり過ごしたほうがいいのになと思うケースとかあると思うんですが。

【梶原委員（足立区立本木保育園）】

うちの園は、産休明けからお預かりしているので、実はもう来年度の内定児が来ていて、生まれたばかり、つい最近1月末に生まれたお子さんもいました。愛着をしっかりとつける時間は大切だと思いますので、なるべくお仕事がお休みのときであったり時間があるときは、一緒にいる時間があるといいですね、というところはすすめていきたいなと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

発達に課題があるお子さんとなしお子さんでは、対応にちがいがあるのでしょうか。1歳、2歳だとまだ発達の偏りなどわからないこともあると思いますが、やはりこの

子は発達面が心配だからと気づいた場合に、保護者にもう少し見てあげてということはあるんですか。

【梶原委員（足立区立本木保育園）】

保育士のほうから見ると、この子どうかなと思うようなときはありますが、小さいうちはまだわからないので、園の中で職員間でいろいろ情報共有しながら、みんなで見ていくという保育をしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

私は、児童養護施設のクリスマスヴィレッジの評議員をしている関係で、いろいろな情報をいただくんですが、そちらの施設ではショートステイもやっていて、発達に課題がある子が最近増えてるということです。障がいのある子の中には、ショートステイで見るのは難しいと思う場合でも、普通に紹介されてくるので、職員の配置がすごく大変だということをおっしゃっていました。「一時期預けてみませんか」と言うと、保護者もすんなり預けられるということです。休むことで保護者とこどもの関係がよくなったりすることもあるので、「がんばって預かっています」とおっしゃっていました。やはり切れ目のない支援が大事で、連携が大事なのかなと思っています。

【松崎委員（北療育医療センター城北分園）】

北療育医療センター城北分園の松崎です。学校の件なんですけれど、この間花畑学園の学校運営連絡協議会に次長の代理で出席しました。委員の評価があって、放課後等デイサービスとの連携は満点に近かったのも、だいぶ進んだんだと、コミュニケーションがとれているなということがありました。すごくマンモス校になって、校長先生が一人、副校長先生が三人いて、学校の運営を

するのがすごく大変そうで、外からの力も入れながらいろいろやっているのがすごくよくわかって、学校の先生がすごく一生懸命やってくださっているということがわかりました。気になったところとしては、いろいろな特性のあるお子さんに気をつかいながら対応されているでしょうし、保護者の方からのご相談にも丁寧に応じなければというところがあったので、先生も多くいらっしゃると思いますが、疲弊されている先生もずいぶん多いのではと感じました。遅くまで働いていらっしゃって、先生方のことが心配というのが実感でした。

【小谷部会長（東京未来大学）】

花畑学園にも学生がボランティアや見学をさせていただいています。医療的ケア児の送迎をやっている数少ない特別支援学校で、日本全国から注目されていると思います。それにこたえるために、現場は新しいことに取り組まなければならないし、失敗は許されないということで、ご苦労が多いのかなと思います。

次年度に向けて、もしご希望があれば出してください。

次年度のこども部会の開催時期については、6月に本会議があるので7月に部会でしょうか。

【和田（障がい福祉センター）】

本会議は6月を予定しておりますが、今回は任期が通算の中なので、日程の前後についてはそこまでは。ただ5月は区のほうがなかなか難しいかと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

では6月の下旬か7月の上旬で、今日お見えでない方にも確認して、という形をお願いします。

【和田（障がい福祉センター）】

保健センターはオブザーバーという形で出席していただくことも可能です。

【小谷部会長（東京未来大学）】

切れ目のない支援ということですので、重大だと思っていて、虐待もそうですし、こども家庭庁ができたことで、子育て支援センターと障がいの部門が一つになりますので。

【佃オブザーバー（千住保健センター）】

まだ降りてきていないので、各自治体で足並みが揃わないので、児童相談所に保健師とかこちらに来るとというのが一斉ではないですね。

【小谷部会長（東京未来大学）】

では、まだ足立区としての動きはないということですね。虐待の予防というか、保護者自身も発達障がいを持っていることもありますので、妊娠時からの切れ目のない支援が必要ですね。

【佃オブザーバー（千住保健センター）】

私になるかはわかりませんが、保健センターからも参加させていただきたいと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

こども家庭庁ができて、保健センターの動きがどうなるのか私たちも気になるのでぜひよろしく願いいたします。

そうしましたら、事務局にお戻しいたします。

（４）事務連絡

【司会】

小谷部会長、委員のみなさまありがとうございました。

会議録につきましては、事務局で案を作成いたしまして委員の皆様には後日お送りします。ご確認いただいて、お戻しいただい

たものをもとに修正し、足立区ホームページに掲載させていただきます。

3 閉会

【司会】

以上をもちまして、足立区地域自立支援協議会こども部会を終了させていただきます。一年間ありがとうございました。お帰り際にはお忘れ物などないようお気をつけください。